

杉の使い方日本一をめざせ！ 日向オリジナル・ストリートファニチャーと 継続した市民メンテナンス



杉生産量連続日本一の宮崎県における日向市の地場産杉材を用いたオリジナルストリートファニチャーの開発と、市民によるメンテナンスの継続した取り組み。まちのシンボルである駅舎と共に、ストリートファニチャーにも杉材を活用し、20年の経年検証を経て、市民が手入れを行うことで、まちへの愛着を育み、持続可能なまちづくりを行っている。

2002 木製ファニチャーワーキング

日向市のまちなかで木を使ったファニチャー類を製作するために、県、市、専門家、施工業者、メーカーからなる木材ワーキングを組織し、検討を進めた

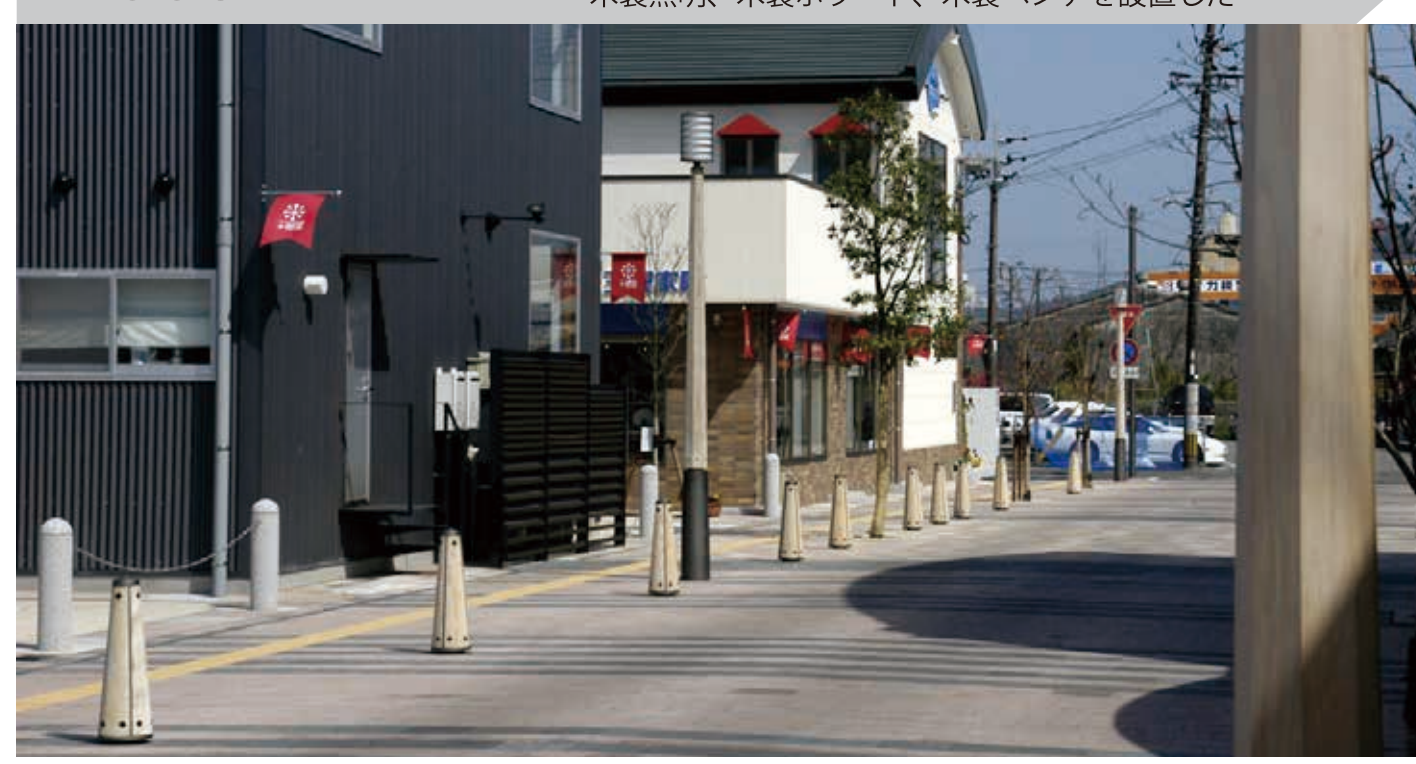


2003 塩見橋 橋詰広場完成



2003 10 街区完成

日向市駅の建て替えに伴う駅周辺街区の整備が進められ、木製照明、木製ボード、木製ベンチを設置した



2006 日向市駅舎・東口駅前広場完成



2008 西口駅前広場完成



2011 10 街区木材利用検証会

2002 年に設置した木製照明、木製ボードの木の表面に鉋を掛け直したところ、木材はほぼ設置時と同様の性能が蘇った



2019 杉ベンチメンテナンスイベント



2023 杉ボードメンテナンスイベント



2024 杉ボードメンテナンスイベント



2025 杉ベンチメンテナンス



地場産杉材を用いた オリジナルストリートファニチャー

杉材はすべて日向市周辺の耳川流域産のものを使用、加工も日向市内、酸化亜鉛含浸処理も宮崎県内でっており、生産から完成まで県外を出ていない

ボード（車止め）

基本的な構成は歩道照明と同様で、鋳鉄製の本体に 4 分割の杉材を取り付ける仕様。

ベンチ

多少の劣化や傷で交換とならないよう杉材は大断面で使用する。空間に合わせ大小 3 タイプを展開している。

歩道照明

鋳鉄＋鋼材の本体の上に 2 分割の杉材を取り付ける仕様。杉材のボルト固定を上下 2 箇所に抑えるため中央部に「鷹口」を用いている。1 灯タイプと 2 灯タイプを展開している。

